

2022 年度会誌「情報処理」モニタ募集のお知らせ

会誌編集委員会

会誌「情報処理」をより良くするために編集委員一同努力を続けておりますが、会員の方々の評価や希望をうかがい、今後の改善に役立てるために、モニタ制度を設けております。関心のある方はぜひふるってご応募ください。

応募の資格 本会会員で、モニタの役割を積極的に果たしていただける方。

モニタの役割 学会 Web ページ (<https://www.ipsj.or.jp/magazine/enquete.html>) から、毎月アンケートに回答する。
◇記事に対する評価 ◇記事に対する感想 ◇意見 ◇記事テーマの提案
◇そのほか全般的な意見・提案など

注) 記事をすべて読むといったことは必ずしも必要ではありません。自分の立場や問題意識、得意とする分野などを基準とした「独断と偏見による」自由な意見を期待します。

期 間 原則として1年間(2022年4月～2023年3月)。*最長3年までとします。

対 象 号 会誌「情報処理」63巻5号～64巻4号

謝 礼 貴重なご意見をいただいた方には、モニタ任期終了後薄謝または記念品を贈呈します。

募集人員 特に定めませんが、応募者数によっては当委員会で調整させていただくことがあります。

応募締切 2022年2月25日(金) 必着

そ の 他 ジュニア会員で、会誌(冊子体)の送付を希望される方には、モニタ期間中会誌を送付いたします。(先着50名、アンケート(12回)に必ず回答いただくことを条件とします)
希望する場合は、申込書の要望欄に<会誌送付希望>とお書きください。

申 込 以下 Web ページ内<2022 年度 会誌「情報処理」モニタ申込フォーム>よりお申し込みください。

<https://www.ipsj.or.jp/magazine/topics/2022monitor.html>



照 会 先 情報処理学会 会誌編集部門(モニタ係) E-mail: editj@ipsj.or.jp



この記事のこんなところが良かった!



こんな記事が読んでみたい!



この記事のここを改善してほしい

ご意見お待ちしております!

[重要] 過去のプログラミング・シンポジウム報告集の利用許諾について

2020年12月18日
プログラミング・シンポジウム委員会

情報処理学会発行の出版物著作権は平成12年から情報処理学会著作権規程に従い、学会に帰属することになっています。

プログラミング・シンポジウムの報告集は、情報処理学会と設立の事情が異なるため、この改訂がシンポジウム内部で徹底しておらず、情報処理学会の他の出版物が情報学広場 (= 情報処理学会電子図書館) で公開されているにもかかわらず、古い報告集には公開されていないものが少からずありました。

プログラミング・シンポジウムは昭和59年に情報処理学会の一部門になりましたが、それ以前の報告集も含め、このたび学会の他の出版物と同様の扱いにしたいと考えます。過去のすべての報告集の論文について、著作権者（論文を執筆された故人の相続人）を探し出して利用許諾に関する同意をいただくことは困難ですので、一定期間の権利者搜索の努力をしたうえで、著作権者が見つからない場合も論文を情報学広場に掲載させていただきたいと思っております。その後、著作権者が発見され、情報学広場への掲載の継続に同意が得られなかった場合には、当該論文については、掲載を停止いたします。

この措置にご意見のある方は、プログラミング・シンポジウムの辻尚史運営委員長 (tsuji@math.s.chiba-u.ac.jp) までお申し出ください。

加えて、著作権者について情報をお持ちの方は事務局 (jigyo@ipsj.or.jp) まで情報をお寄せくださいますようお願い申し上げます。

情報処理学会著作権規程

<https://www.ipsj.or.jp/copyright/ronbun/copyright.html>

IPSJ メールニュースへ広告を出しませんか？

広告をIPSJメールニュースで配信しています。本会会員が主な読者なので、ターゲットを絞った広告に最適です。

- 配 信 数：約41,000通（原則毎週月曜日配信）
- 読 者 層：本会会員および非会員
- 形 式：テキストのみ。等幅半角70字×5行。URLを入れてください。
- 掲載位置：ヘッダ（目次の上）
フッタ（本文の最下行）
- 掲 載 料：ヘッダ：1回55,000円（税10%込）※3社限定
フッタ：1回22,000円（税10%込）
※それぞれ行数超過については別途相談
- 申 込 先：[広告代理店]
アドコム・メディア（株）E-mail: sales@adcom-media.co.jp
〒169-0073 東京都新宿区百人町2-21-27 Tel(03)3367-0571 Fax(03)3368-1519
または、情報処理学会 会誌編集部門 E-mail: editj@ipsj.or.jp Tel(03)3518-8371
- 申込締切：毎週水曜日締切、翌週月曜日配信となります。
- 見 本：

— [広告] —

■■■■ ○○セミナー ■■■■

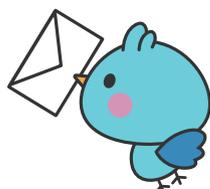
開催日時：1月10日（火）・11日（水）・12日（木）13：00～17：00

会場：○○コンベンションセンター

会費：情報処理学会会員の方には割引があります。

詳細はこちらをご覧ください：<http://www.....com/>

— [広告] —



● 論文誌ジャーナル掲載論文リスト

Vol.63 No.1 (Jan. 2022)

【特集：社会課題を解決するコラボレーション技術とネットワークサービス】

- 特集「社会課題を解決するコラボレーション技術とネットワークサービス」の編集にあたって 市川裕介
- オンラインの学会発表におけるプレゼンテーションスタイルの印象評価 越後宏紀 他
- 会話の流れの可視化によるビデオ会議への効果 今井 廉 他
- 実空間の点群情報を用いた空間接続表現の提案 本信敏学 他
- 新型コロナウイルス感染症流行時における Twitter 上の流言訂正情報に関する分析 平林 (宮部) 真衣 他
- Baseless-Rumor Alert Bot to Promote Reliability of Information Ryota Nishimura 他
- University-level Mathematics Pre-enrollment Education Combining Individual and Group Works in a Perfectly Distributed Asynchronous Environment † Yuki Hirai 他
- タッチ操作ログに基づいた操作形態推定手法 平部裕子 他
- 客動線分析のための ID-POS データを用いたエージェンツシミュレーションシステムの提案 中村綾乃 他
- 施設管理支援に向けた常時型人流予測 角田啓介 他
- カラー管理された電力需給における高効率な電力利用を可能とする充放電および送電管理方式 鈴木敏明 他
- 単語分散表現による類義語統一と単語 N-gram によるフレーズ抽出に基づくセキュリティ要件分類手法 宮崎智己 他
- 作業手順内の行為の目的を表出し構造化する方法の提案 - 介護現場での目的指向知識構造化 - 伊集院幸輝 他
- 高齢者の自立支援介護における遠隔技術を用いた知識・データ融合の実践と分析 吉田康行 他

【特集：ニューノーマル時代の高度交通システムとパーベイシブシステム】

- 特集「ニューノーマル時代の高度交通システムとパーベイシブシステム」の編集にあたって 清原良三
- Congestion Control Algorithms for Collective Perception in Vehicular Networks Susumu Ishihara 他
- 拡張 NTMobile を用いたアプリケーションレベルで実現するシームレス IP Flow Mobility 松岡 穂 他
- 人口統計データを用いた高需要時の飲食店需要予測 篠田謙司 他
- Accurate and Efficient Driving Intention Inference Based on Traffic Environment Information and FES-XGB Framework Shuo Wang 他
- Traffic Prediction During Large-Scale Events Based on Pattern-Aware Regression Takafumi Okukubo 他
- 自動走行車両の進行方向提示と搭乗者の安心感の関係性調査 坂村祐希 他
- レーン別渋滞検知技術の提案とフィールド実験への適用評価 森 皓平 他
- Carrying-Mode Free Indoor Positioning Using Smartphone and Smartwatch and Its Evaluations Tomoya Wakaizumi 他

【一般論文】

- CBR-ACE : Counting Human Exercise Using Wi-Fi Beamforming Reports Sorachi Kato 他

- 分散協調型の電波電力伝送における位相最適化アルゴリズム 林健太朗 他
- iBeacon を用いた位置推定における人体の影響による誤差の軽減* 宮崎喬行 他
- A Proof of Work Based on Preimage Problem of Variants of SHA-3 with ASIC Resistance* Takaki Asanuma 他
- マネージドセキュリティサービスのための受動的なログを用いたネットワーク構成情報検証方法* 上川先之 他
- Knowledge Graph Attention Network に基づく購買行動分析モデルに関する一考察 伊藤史世 他
- 機械学習アプローチに基づく中古ファッションアイテムの価格保持期間適正化モデルの提案と実証の効果検証 桑田 和 他
- 対話型顧客アクターによるマルチモーダル接客訓練 VR システム 古野友也 他
- 仮面劇のためのプロトタイピングが容易な動的な外見拡張手法 † 増井元康 他
- なげれる君：ボウリング初心者のための投球フォームリフレクション支援アプリケーションの設計と実装 † 浦谷成敏 他

* : 推薦論文 Recommended Paper

† : テクニカルノート Technical Note



● 論文誌トランザクション掲載論文リスト (Jan. 2022)

【論文誌 プログラミング Vol.15 No.1】

- Automatic Optimize-time Validation for Binary Optimizers Motohiro Kawahito 他
- RL78 マイコン向け C コンパイラにおける procedural abstraction の実装 千葉雄司 他
- Scalar Replacement Considering Branch Divergence Junji Fukuhara 他



【論文誌 データベース Vol.15 No.1】

- 実空間のユーザ行動分析に基づく潜在的興味分析方式 大村貴信 他



【Transactions on Bioinformatics Vol.15】

- A Novel Metagenomic Binning Framework Using NLP Techniques in Feature Extraction Viet Toan Tran 他



【論文誌 デジタルプラクティス Vol.3 No.1】

- レガシーシステム移行時の性能劣化を改善するリファクタリング支援手法の提案 岡田讓二 他
- Performance Evaluation of High Availability Database Systems Using Low-latency I/O Device Shinji Fujiwara 他

- 空調機ソフトウェアを対象とした SPLE 開発におけるブランチ・マージプロセスの改善と考察 長峯 基 他
- SFC GO : 学生同士の繋がりを支援するオンライン体育授業サポートシステム 佐々木航 他



【論文誌 数理モデル化と応用 Vol.15 No.1】

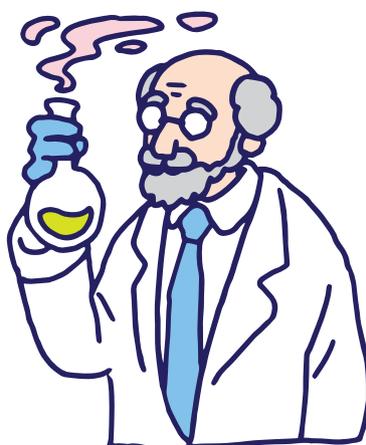
- ナッジ理論を用いたコミュニティ活動活性化モデル 木村隆大 他
- Modeling Imperfect Information TANHINMIN with Structural Oracle Hironori Kiya 他

- Accelerating the Numerical Computation of Positive Roots of Polynomials Using Suitable Combination of Lower Bounds Masami Takata 他



【論文誌 コンシューマ・デバイス&システム Vol.12 No.1】

- 現場作業でのドキュメント閲覧に適したスマートグラス用ジェスチャ操作 UI 尾崎友哉 他



◎ IPSJ カレンダー◎

学会イベントの最新情報を下記 URL でご案内しています。新型コロナウイルス感染症拡大を受け、開催方法の変更、開催中止などの可能性がありますので、最新情報をご確認いただきますようお願いいたします。

<https://www.ipsj.or.jp/calendar.html>



今月の会員の広場では、11月号へのご意見・ご感想を紹介いたします。

巻頭コラム「Changing the World」

- パソコンの研究での活用の歴史とそれに対する人の意識の変化についての知見が興味深い。(祖父江真一)
- コンピュータ普及以前は、使用を否定されていたというエピソードが印象的だった。現状の有機ELについても解説してほしかった。(鈴木広人)
- 夢のある話が現実のものとなるということが具体的に実感できて明るい未来を見ることができるようで少し幸せな気分になりよかったです。(匿名希望)
- 研究と研究者の在り方を教えられます。有機ELの開発時は研究者が白い目で見られたとは知りませんでした。(滝口 亨)
- コンピュータに対する夢や可能性を想起させられ、読後感の良いコラムでした。(金子雄介)

特別解説「暗号資産の現在と将来」

- 資産的価値は最終的に大衆が行っていくことになることを考えているため、将来性を不安視することも重要であるが、こういった形で今後価値が見出されると考えられるか、知見がほしかった。(印部太智)
- 暗号資産への投資やビットコインに関係した企業の株価がアップするなど、話題の多い暗号資産の現状だが、その成り立ちに関しての情報は多いものの、今後どのように進んでいくかについてはなかなか方向性が見えない。そのような中、交渉のメカニズムに関して論じてくださったのはとてもありがたかった。(濱 久人)
- 本誌に投資物件のような暗号資産の記事が掲載されること自体、非常に興味深く感じます。著者の「根源的価値は値上がり益」という見解は私も同感です。(滝口 亨)

特集「観光情報学」

- 「0. 編集にあたって」
- COVID-19でオンライン観光が注目されるようになったが、観光情報学はほかにも病気などで観光できない人のために

もなる研究だと思いました。(匿名希望)

「1. ポストコロナにおける観光」

- 前半でスマートツーリズムの3つの基本要素が挙げられており、そこにICTが貢献できると書いてあり、良いことだと思った。後半で、スマートツーリズムへのICT利用の具体例が出てくることを期待したが、その具体例があまり出てこないのがガッカリした。(中島秀之)

「2. 観光情報のオープンデータ化」

- 各自治体が公開しているデータはバラバラのため統合して提案してくれるアプリがあると観光客にとって有益なサポートである。チェックイン機能による訪問ログや所在地から空き時間が〇分あるならこの場所がおすすめなどもサポートしてくれるとアプリに育ってくれると嬉しい。(匿名希望)

「3. UGC を利用した観光資源の発見と推薦」

- 観光スポットの質、ルートの質、ユーザの嗜好、およびリアルタイムの人流を考慮した観光ルートの生成・推奨が可能となり、観光地巡りがより充実したものになることを期待する。(山下昭裕)

「4. 参加型観光情報の収集」

- 本イベントで投稿された情報を一般公開することでより観光の活性化につながると感じた。ゲーム感覚で楽しめて、参加得点があるため参加しやすい。本文で言及されている通り、アプリへのハードルがあるのではと思ったが幅広い年齢から参加しているのは意外だった。(匿名希望)

「5. 人流クラスタリング解析」

- 観光と人流予測を合わせることで、道路の渋滞予測と同じく今からその観光地に向かうと混んでいる可能性があるなど予測してくれて面白く感じた。ただ、展望にあるように個人情報の保護とのバランスがハードルになると思う。(匿名希望)

「6. 観光ナビゲーション」

- 訪問する観光地が決まってからの推薦機能が充実してきているが、観光地が数ある中から選ぶのを助ける機能も、観光活動を再開していく段階では有用になるのではないかと。(佐藤章博)

「7. 観光のための動画キュレーション」

- メモリアル動画にドライブレコーダの映像を用いるという発想が面白く感じた(匿名希望/ジュニア会員)

「8. 観光とチャットボット」

- ほとんどがチャットボットの解説になっており、観光特有の課題、実験を紹介していないように感じる。(匿名希望)

「9. 観光客の心理状態推定」

- 観光における心理状態推定はこれから重要な技術になって

くると感じました。どのように心理状態を収集するか、課題もありますが発展が期待できます。(岡本克也)

DP コーナー「DXのプラクティス」

「0. 編集にあたって」

■「ニューノーマル時代を生き延びる」という副題は、さまざまな苦勞を抱えながら日々DX推進に臨んでいる現場担当者への熱いエールのようだ。(広野淳之)

「1. [解説論文]DX先進企業から見るDXの現在地,構造,方向」

■日本の最優先課題の1つであるDXの推進状況を、実際の調査結果をベースに分かりやすく整理されていました。DX推進に関するさまざまな提案がされており、これらが各企業に伝わることにより、実効性のあるDX事例が増えればよいと思います。(後藤正宏)

「3. [招待論文]顔認証とDigital IDを活用したサービス社会の実現に向けて」

■JR東日本が昨年7月に顔認証機能付きの防犯カメラを導入して物議を醸したばかりであり、多数の市民にとって関心のあるテーマだった点や分かりやすい解説が素晴らしい。(大塚敬義)

「4. [招待論文]事例から見るRPA導入の課題とその解決」

■RPA導入における失敗(会社の恥?)を包み隠さず公表し、それを踏まえた考察なので、頷く点が多く、秀逸な論文だと思った。業務を知る現場社員の「カイゼン活動」としてRPAを適用し、スモールスタートで始め、推進側が適用範囲をうまく制御するのが「コツ」と読み取った。(小橋喜嗣)

「5. インタビュー:DXのプラクティス」

■この特集全体がDXに対する考え方で自分の中でぼやっとしていた部分をすっきりとさせてくれた印象ですが、その中で特にこのインタビューは私の中で曖昧だった点を直接説明してくれているようで、非常にためになる記事でした。(山本一公)

「[ユニシス研究会]新しい生活様式に適したセキュアなリッチクライアントの実装」

■Windows10およびMicrosoft365の標準機能を備えたノートPCを使い、情報漏洩やセキュリティ対策を標準機能の活用で充足し、テレワークでのログオン認証を可能にする事例は、一般企業に有益と思われる。(匿名希望)

「[日立ITユーザ会]建設現場のデジタルシフト」

■建設現場で行われているDX化の数々の事例について、具体的に紹介されているのが大変よかった。このように既存の要素技術を組み合わせることで業界に特化したシステムを構築することが本当の意味でのDXだと感じる。(匿名希望)

教育コーナー「べた語義」

「データサイエンスカリキュラム標準(専門教育レベル)の公開について」

■データサイエンスカリキュラム標準(専門教育レベル)を見ました。知識、スキル、態度別に目標が具体的で分かりやすいと感じました。情報処理学会で策定中のデータサイエンティスト資格の公表にも期待しています。(匿名希望)

「大学入学共通テスト「情報」サンプル問題を題材とした研究協議」

■大学入学共通テスト「情報」のサンプル問題や実施に向けての課題などを知ることができた。実際の問題点として、現場の情報科担当教員の負担をいかに軽減化するかは大切な問題であることが理解できた。(小西敏雄)

「オンライン授業導入の舞台裏」

■急遽、オンライン授業対応が迫られる中、迅速に準備を進め、さらに学生とインタラクティブに意見交換を行うことにより、さまざまな教育機関や企業が戸惑う中、高い満足度が得られるように設計されている点が興味深い。規模は違うが、今後同じような事態になったとき、あるいは別の事態であっても緊急で何かに対応する際の参考にしたい。(高田峻介)

連載「情報の授業をしよう!:中学校技術科における双方向通信ネットワークおよび計測・制御の授業実践」

■「実践1と実践2ともに「学習のくくり」でどのような視点・考え方で学習し何を学習の獲得目標にするかが明確になっていて、その後の「ガイダンス」、「つかむ学習」、「追及する学習」、「つなげる学習」の流れと有機的につながっていると感じました。(松浦満夫)

連載「ビブリオ・トーク:ソフトウェア工学から学ぶ機械学習の品質問題」

■正解・不正解の判断だけではないということがわかりました。(くろやなぎゆうた/ジュニア会員)

■機械学習をしたことがない人たちがAIを簡単に操作したり、〇〇の業務はすべてAIにとって代わると信じ込んだり、AIを妖術と混同している人たちが散見されます。この書籍で、AIにかかわる人や運用する人に、機械学習の品質問題を学んでほしいと思いました。(匿名希望)

連載「5分で分かる!?有名論文ナナメ読み:Simeone, A.; Substitutional Reality: Using the Physical…」

■SRという、これから来るかもしれないトレンドおよびそ

の流れについて分かりやすく解説されており、紹介される論文内容も自身の研究分野に合致したものであったため興味深く感じた。(高田峻介)

「先生、質問です！」には以下の質問をいただきました。

- 資金と向き合っている回答者に感銘を受けました。今回のテーマについて、資金を得ることが目的とならないことを願う次第です。(伊藤治夫)
- 研究資金獲得に関する(企業ではうかがいしれない)苦勞が垣間見えた。(上田晴康)
- 自分が勤務先学内で競争的研究資金の獲得に成功しても、なぜ学外において科研費の獲得で苦勞を重ねるのかその原因の一端を認知できた。(大塚敬義)

会議レポート「ACM CHI 2021 会議報告 (2)」

- オンライン会議で課題とされている問題について ACM CHI 2021 ではどのように対応していったのか、それに対する反応がどうだったのかがまとまっており非常に参考になるのではないかと考える。(柴田 晃)
- オンラインポスター発表の待ちぼうけ問題という言いにくい話題を文章化した著者の勇気と知性に敬服した。(大塚敬義)

オンライン化について、以下のようなご意見やご要望をお寄せいただきました。今後の参考にいたします。

- EPUB だけなら反対 (祖父江真一)

- YouTube 感覚で内容が分かるとよいかと思っています。YouTube に記事の紹介動画を UP すればよいかと思っています。または第三者が記事内容を YouTube で講評すればよいかと。(伊藤治夫)
- PC で PDF 版(全体版)を読んでいるが、オンライン記事はどれもページの両端や行間が妙に広く、図の上下なども変に空白が多く非常に読みにくい。もう少し学会誌としての体裁を整えた編集をしてほしい。(上田晴康)
- PDF 化の恩恵により、視力の低下した市民でも文字を拡大して読解できる利点があるのでオンライン化に賛成です。(大塚敬義)

【本欄担当 山本祐輔, 水上雅博/会員サービス分野】

これらのコメントは Web 版会員の広場「読者からの声」< URL : <https://www.ipsj.or.jp/magazine/dokusha.html> > にも掲載しています。Web 版では、紙面の制限などのため掲載できなかったコメントも掲載していますので、ぜひ、こちらもご参照ください。会誌や掲載記事に関するご意見・ご感想は学会 Web ページでも受け付けております。今後もより良い会誌を作るため、ぜひ皆様のお声をお寄せください。

「情報処理」アンケート回答フォーム▶
<https://www.ipsj.or.jp/magazine/enquete.html>



CONTENTS

Preface

- 46 **Forgetful Body**
Yuya KIKUKAWA (ORPHE Inc.)

Special Article

- 48 **The Establishment of The "Digital Division" in The Examination for Comprehensive Service - The Overview and Sample Questions -**
Takeshi SATOU (National Personnel Authority)

Special Features

What Will Smart Factory Change in Factories?

- 54 **Foreword**
Mikiko SODE TANAKA (International College of Technology) and Koichi TANAKA (Mitsubishi Electric Corp.)
- 56 **Outline**

Digital Practice Corner

Data Science in Big Data : Big Data in the New Normal

- 58 **Foreword**
Yohei SATO (Village AI / nat / Lupinus) and Kazuo ISHII (Suwa Univ. of Science)
- 60 **Outline**

Let's Learn Informatics

- 64 **Data Analysis Lessons Using Smartphone's Built-in Sensors in a High School Technical Studies Course**

Tomonari KISHIMOTO (Osaka Electro-Communication Univ. High School)

"Peta-gogy" for Future

- 71 **How Can You Take Online Classes Comfortably?**
Toru OCHI (Osaka Institute of Technology)
- 72 **Report of The Symposium of FIT2021- The Future of "Informatics" on The Common Test for University Admissions -**
Rieko INABA (Tsuda Univ.)
- 77 **Comments on The Introduction of The Subject "Information" in The Common Test for University Admissions**
Tatsuya KAWAHARA (Kyoto Univ.)
- 79 **Compulsory Subject "Informatics" in The Entrance Examination of National Universities in Japan**
Yasuichi NAKAYAMA (The Univ. of Electro-Communications)

-
- 70 **Questions for Experts**
 - 84 **Biblio Talk**
 - 86 **Skimming a Famous Paper in Five Minutes**
 - 88 **Committee Reports**
 - 90 **IT Travelog Manga**

Online Only

Special Features

What Will Smart Factory Change in Factories?

- e1 **Latest Factory Automation Technologies and Activities for Achieving "Smart Factory"**
Kazuhiro KUSUNOKI (Mitsubishi Electric Corp.)
- e7 **Real-time AI Technologies for Digital Transformation in Manufacturing**
Yasushi SAKURAI (Osaka Univ.)
- e13 **IoT Platform Now and Future**
Satoshi SUZUKI (NTT DATA Corp.)
- e19 **Private 5G to Support The Realization of Smart Factories - Understanding The Systems, Technologies and Considerations for Implementing Private 5G -**
Hiroaki KAKIMOTO (NTT Communications Corp.)
- e26 **Future Industrial Infrastructure and Production**

Systems for Sustainable Society - From The Roadmap Toward 2050 in The Consortium for Human-Centric Manufacturing Innovation -
Masayo IWAI and Tamio TANIKAWA (AIST Consortium for Human-Centric Manufacturing Innovation)

Let's Share Working Styles! <by Info-WorkPlace Committee>

- e50 **CASE 3 : Our Office Has Moved to Online**
Kaori ITO (Yahoo Japan Corp.)
-
- e33 **What Kind of Exam Questions on Informatics Will Appear in University Entrance Exams?**
 - e57 **Conference Report**

読後のご意見をお送りください

本誌では、現在約 200 名の方々に毎号のモニタをお願いしておりますが、より多くの読者の皆さんからのご意見、ご提案をおうかがいし、誌面の充実に役立てていきたいと考えておりますので、以下 Web ページから奮って事務局までお寄せください。

「情報処理」アンケートページ <https://www.ipsj.or.jp/magazine/enquete.html>

一般社団法人 情報処理学会 会誌編集部門 E-mail: editj@ipsj.or.jp

人材募集 (有料会告)

申込方法: 任意の用紙に件名, 申込者氏名, 勤務先, 職名, 住所, 電話番号および請求書に記載する「宛名」, Web掲載の有無などを記載し, 掲載希望原稿 ([募集職種, 募集人員, (所属), 専門分野, (担当科目), 応募資格, 着任時期, 提出書類, 応募締切, 送付先, 照会先]) を添えて下記の申込先へ, E-mail, Fax または郵送にてお申し込みください。

*都合により編集させていただく場合がありますので, ご了承ください。

申込期限: 毎月15日を締切日とし翌月号(15日発行)に掲載します。

掲載料金: 国公私立教育機関, 国公立研究機関 22,000円(税10%込)

賛助会員(企業) 33,000円(税10%込)

賛助会員以外の企業 55,000円(税10%込)

*本会誌へ掲載依頼いただいた場合に限り, 追加料金4,400円(税10%込)で同一内容を本会Webページに掲載できます。

申込先: 情報処理学会 会誌編集部(有料会告係) E-mail: editj@ipsj.or.jp Fax(03)3518-8375

*原稿受付の際には必ず原稿受領のお知らせを差し上げています。もし3日以内(土日祝日除く)に返信がない場合は念のため確認のご連絡をください。

*特に指定がない かぎり履歴書に は写真を貼付の こと

■神奈川工科大学創造工学部 自動車システム開発工学科

募集人員 教授 1名

職務内容 創造工学部自動車システム開発工学科における教育, 研究および運営

専門分野 自動車の情報通信, 自動運転, 交通システム

担当科目 情報通信・制御プログラミング・データ解析と人工知能・自動運転などに関する講義・実習, および卒業研究指導

応募資格 (1) 博士の学位を有するか, あるいはそれに相当する実績を有すること, (2) 自動車の情報通信・自動運転に関する研究実績または実務経験を有することが望ましい, (3) 教育・研究・学生指導に熱意を有し, そのために必要な学識を有すること, (4) 大学・学科などの組織運営に協動的に参加できること

着任時期 2022年4月1日以降なるべく早い時期

提出書類 (1) 履歴書(学歴, 職歴, 学会活動, 社会活動など, 連絡先とE-mailを明記のこと。書式は本学所定の履歴書・業績書(教員用)を使用。http://www.kait.jp/recruit/), (2) 研究・開発業績リスト(論文等, 著書, 登録特許, 研究開発プロジェクト名など)。なお論文等の著者は全員記入してください。書式については(1)と同様, (3) 主要論文別刷またはそのコピー(2~3編程度), (4) これまでのご自身の研究・開発の実績, これからの具体的な抱負についてA4用紙4枚以内にまとめたもの, (5) 可能な方は, 推薦書または所見を求められることができる方2名以内の氏名・所属・連絡先

※(2)の学協会印刷発表論文は履歴書(B-1)に, 査読付き国際会議発表論文は履歴書(B-2)に, その他の発表論文・特許等は分類して履歴書(B-3)に, それぞれ新しい順に番号を付けて記入

応募期間 2021年12月1日~2022年2月11日

なお, 応募書類受付次第, 順次, 面接~決定を実施する場合がある

送付先 〒243-0292 神奈川県厚木市下荻野1030

神奈川工科大学 庶務担当部長 保坂精一宛

※応募書類は, 封筒の表に「自動車システム開発工学科教員 応募」と朱書きし, 簡易書留または書留でお送りください

照会先 創造工学部自動車システム開発工学科

教授 脇田敏裕 E-mail: wakita@cco.kanagawa-it.ac.jp

Tel(046)291-3091

その他 【選考方法】書類選考による1次選考後, 面接による2次選考を行います。2次選考時, 15分程度の模擬授業を実施していただきます。なお, 選考に要する旅費などは支給いたしません

応募書類により取得した個人情報, 選考および任用の手続きを行う目的で利用するものであり, この目的以外で利用または提供することはありません。なお, 採用に至らなかった方の応募書類は, 当該採用選考業務終了後, 適切な方法にて破棄いたします。給与等は本学の規程によります

詳細情報および書式, 書類提出先等は, 本学Webページ「教職

員採用情報」を必ず参照してください

http://www.kait.jp/recruit/

https://jrecin.jst.go.jp/seek/SeekJorDetail?id=D121120223

■青森大学ソフトウェア情報学部

募集人員 准教授または講師または助教 1名(任期なし, 試用期間1年)

専門分野 情報工学(主にEdTechの周辺分野の研究領域が望ましい)

※また上記にかかわらず, 広く情報処理技術に関連する分野も対象とします

担当科目 卒業研究, ゼミを含む情報工学分野の複数科目(講義, 演習)およびプログラミング演習

応募資格 博士の学位を有するか着任までに取得見込み, または同等の業績や実務経験を有し, 教育・研究に熱意のある方

着任時期 2022年4月1日

提出書類 (1) 履歴書(連絡先としてE-mailも明記), (2) 研究業績リスト(著書, 査読付き論文, 国際会議, 特許等に区分), (3) 主要論文別刷またはコピー(3編程度), (4) これまでの研究概要(A4用紙2ページ程度), (5) 学会および社会における活動(学会活動, 社会貢献, 地域貢献, 実務経験等の実績), (6) 教育・研究に関する抱負(A4用紙1~2ページ程度), (7) 本人に関する所見を求められる人(2名)の氏名と連絡先(所属, 住所, 電話, E-mail)

※書類はすべてスキャンデータ等でメール添付での送付を推奨します
※紙面での送付も受け付けます

応募締切 2022年2月14日(必着)

※応募から順次選考を実施, 適任者の採用が確定次第, 募集を締め切ります

送付先/照会先 〒030-0943 青森県青森市幸畑2-3-1

青森大学ソフトウェア情報学部長 角田 均

E-mail: tsunoda@aomori-u.ac.jp Tel(017)738-2001(代表)

※メールで提出の場合, データサイズが大きい場合(10Mbyte以上)は分割して送信をお願いします

※紙面で提出の場合, 「ソフトウェア情報学部教員応募書類在中」と朱書きし, (簡易)書留をお願いします(応募書類は返却しませんのでご了承ください)

※メール/紙面とも受領通知をメールでお送りします

その他 【勤務地】青森大学青森キャンパス(青森県青森市幸畑2-3-1)

【選考方法】書類選考を経て面接(模擬授業を含む)を実施します

※面接および模擬授業について, 可能な場合はオンライン(Zoom等利用)で実施します

※オフライン実施の場合は, 旅費・滞在費のうち一定額を支給します



FIT2022 第 21 回情報科学技術フォーラム 選奨論文・一般論文 講演募集予告

会 期：2022年9月13日（火）～15日（木）

会 場：慶應義塾大学 矢上キャンパス

FIT2022 Web ページ <https://www.ipsj.or.jp/event/fit/fit2022/>

受付期間(予定)：2022年3月29日（火）～5月11日（水）

- ◆論文ページ数：2～8ページ程度
- ◆講演時間：20分
- ◆3ページ目以降は追加ページ代（4,000円／ページ）が必要です

電子情報通信学会 情報・システムソサイエティ (ISS) 並びにヒューマンコミュニケーショングループ (HCG) と情報処理学会 (IPJS) は、2002年から毎年秋季に合同で「情報科学技術フォーラム(FIT: Forum on Information Technology)」を開催しています。2022年9月には、第21回目を慶應義塾大学 矢上キャンパスで開催します。FITは、両学会の大会の流れをくむものであると同時に、従来の大会の形式にとらわれずに新しい発表形式を導入し、タイムリーな情報発信、活気ある議論・討論、多彩な企画、他分野研究者との交流を実現してきております。皆様の研究成果発表の場として、標記のとおり論文発表を募集致しますので奮ってお申込み下さい。

●申込主要日程（予定）

登録申込／投稿受付期間：2022年3月29日（火）から 2022年5月11日（水）まで

最終掲載原稿締切：2022年6月24日（金）

※ FIT2017 より、査読付き論文は廃止とし、選奨論文制度を取り入れました。

※ 登録申込と原稿投稿は上記のFIT2022 Webページよりお願い致します。詳細は決定次第 Webページでお知らせ致します。

●表彰

FITには、以下の表彰制度がありますので是非ともチャレンジして下さい。

いずれの賞も、電子情報通信学会又は情報処理学会の会員であることが受賞条件となりますのでこの機会に是非御入会下さい。

船井ベストペーパー賞	選奨論文の中から、FIT 学術賞選定委員会で審査の上3件選定。賞金は船井情報科学振興財団より20万円贈呈。
FIT 論文賞	選奨論文の中から、FIT 学術賞選定委員会で審査の上7件程度選定。賞金はFIT 運営委員会より5万円贈呈。
FIT ヤングリサーチャー賞	2022年12月31日現在で33歳未満の講演者（選奨論文および一般論文）の中から、発表件数の1.5%を上限として選定。賞金はFIT 運営委員会より3万円贈呈。本賞受賞は本人に対し一回のみ。
FIT 奨励賞	一般発表のセッション毎に座長の裁量で優秀な発表を1件その場で選定（該当なしもあり）。FIT 終了後に賞状を贈呈。

●選奨論文（4～8 ページ程度）

投稿された論文の担当研究会を決定していただきます。FIT2022 Web ページに掲載の研究会取り扱い分野をよく御確認のうえ御自身の論文内容と一致した研究会を、申込者御自身の責任において投稿時に適切に選択して下さい。

船井ベストペーパー賞、FIT 論文賞への審査を希望する場合は、Web からの講演申込みの際に必ず論文形式で『選奨論文』を選択して下さい。但し、賞を前提とした論文形式となりますので、電子情報通信学会又は情報処理学会の会員であることが投稿条件となります。非会員の方は御入会手続きをお済ませの上御投稿下さい。選奨論文は FIT 初日の選奨セッションに組み込まれ、各セッションにて選奨委員2名による1次審査を行います。1次審査の結果は当日の夕方までに大会会場に掲示されます。2次審査はFIT 終了後実施され、上位3件が船井ベストペーパー賞、次点7件程度が FIT 論文賞の受賞となります。

※4 ページ以上の投稿が必須ですが、3 ページ目からは追加ページ代（4,000円／ページ）が発生します。例えば6 ページ投稿の場合、4 ページ分の追加ページ代が発生しますので、講演参加費のほかに「4,000円×4=16,000円」の追加費用が必要となります。

●一般論文（2～8 ページ程度）

FIT2022 Web ページに掲載の研究会取り扱い分野をよく御確認のうえ御自身の論文内容と一致した研究会を、申込者御自身の責任において適切に選択して下さい。

※3 ページ以上の投稿される場合は、3 ページ目からは追加ページ代（4,000円／ページ）が発生します。例えば4 ページ投稿の場合、2 ページ分の追加ページ代が発生しますので、講演参加費のほかに「4,000円×2=8,000円」の追加費用が必要となります。

●論文誌推薦制度

選奨論文の中から船井ベストペーパー賞の審査を通して優秀な論文と判断されたものを、FIT プログラム委員会が電子情報通信学会または情報処理学会 (FIT 講演申込フォームの講演応募分野 (研究会) で選択した研究会が属する学会) の論文誌へ推薦します。掲載の採否は、それぞれの学会の論文誌編集委員会が決定します。論文誌への投稿の際には、投稿先論文誌編集委員会の評価基準を満足しうる、完成度の高い論文に仕上げて頂くことをお勧めします。なお、推薦を辞退することも可能です。

●問合せ先（FIT2022事務局）

〒101-0062 千代田区神田駿河台1-5 化学会館4階

情報処理学会 事業部門 TEL. 03-3518-8373 FAX. 03-3518-8375 E-mail: ipsjfit@ipsj.or.jp

情報処理学会 第 84 回全国大会 聴講事前申込受付中
イベント企画のみの聴講参加は「無料」!! ハイブリッド開催
申込はこちらから⇒ <https://www.ipsj.or.jp/event/taikai/84/>
事前申込がお得です! ぜひ皆様お誘い合わせの上、奮ってご参加ください

『変わる社会と情報処理』

大会会期：2022年3月3日（木）～5日（土）
 大会会場：愛媛大学 城北キャンパス（愛媛県松山市文京町3） ハイブリッド開催
 共 催：愛媛大学
 後 援：愛媛県 愛媛県教育委員会 全国高等学校情報教育研究会

情報処理学会第84回全国大会の「大会聴講参加」の申込を受付中です。

- イベント会場・特別会場において開催される「特別講演／招待講演／イベント企画／各種展示」を聴講・ご覧になる場合
→「大会イベント企画限定聴講参加」（無料）
- 上記に加え、「一般セッション／学生セッション」を聴講する場合
→「大会共通聴講参加」（有料）

イベント企画のみ聴講希望の方は、大会 Web ページから申込みをする際、「大会イベント企画限定聴講参加」にお申し込みください。
 通常の一般セッション・学生セッションも聴講希望の場合は、「大会共通聴講参加」にお申し込みください（聴講参加費は有料となります）
 事前申込受付期間を過ぎると当日価格となりますのでお申し込みはお早めにも！

事前申込受付期間：2021年12月6日（月）～2022年2月15日（火）

招待講演・特別講演・公開講演企画【聴講参加無料】：招待講演4件、特別講演3件、公開講演1件を予定しております。

招待講演-1	3日（木）16：20～16：35	未定（The Korean Institute of Information Scientists and Engineers）
招待講演-2	3日（木）16：35～16：50	未定（China Computer Federation）
招待講演-3	3日（木）16：50～17：05	未定（IEEE Computer Society）
招待講演-4	3日（木）17：05～17：20	「Intelligence? Smartness? Emotion? What do we expect from future computing machinery?」（Association for Computing Machinery）
特別講演	4日（金）15：20～16：20	『「ポスト量子」暗号 --- 量子計算機に対して安全な暗号の最前線』
	4日（金）16：30～17：30	「スパコン富岳による飛沫エアロゾル感染リスク評価のデジタルトランスフォーメーション」
	5日（土）15：30～17：30	IPSJ-ONE
公開講演	5日（土）13：20～15：20	「デジタルが地域に変革をもたらす -愛媛から始めるDX-」

イベント企画【聴講参加無料】：各イベント企画では、その分野の最前線で活躍されておられる方をお招きし、講演・パネル討論等の開催を予定しております。

第1 イベント会場	3日 9：30～11：30	「一次産業とICT」
	4日 9：30～11：30	「ヘルスケア情報の利活用に資する匿名加工技術の実現に向けて～匿名加工コンテスト PWS Cup 2021～」
	4日 12：40～15：10	「知能と計算とアーキテクチャの新しい関係を目指して」
	5日 9：30～12：00	「情報入試ー共通テストと個別試験（仮題）」
	5日 13：20～15：20	「① IPSJ KIDS, ② 大学共通テスト解説」
第2 イベント会場	3日 9：30～11：30	「2021年サイバー事件回顧録～技術と法制度の両面から～」
	3日 12：40～15：10	「～コンピュータパイオニアが語る～『私の詩と真実』」（オンライン）
	4日 9：30～11：30	「一般情報教育と数理・データサイエンス・AI」
	4日 12：40～15：10	「新世代委員会企画」
	5日 9：30～15：20	「第14回情報システム教育コンテスト」
第3 イベント会場	3日 9：30～11：30	「革新的アルゴリズム基盤の構築に向けて」
	3日 12：40～15：10	「IoT が拓く未来：～2030年の未来予想図～」
	4日 9：30～11：30	「アジャイル開発の契約上の問題点と対策」
	4日 12：40～15：10	「日本機械学会／情報処理学会 合同企画 モノづくりと情報処理における人材育成について」
	5日 9：30～12：00	「初等中等教員研究発表セッション」

第4 イベント会場	3日 9:30～11:30	「IT 情報系キャリア研究セッション」
	3日 12:30～13:30	「AI TECH TALK」
	3日 15:20～17:20	「IT 情報系キャリア研究セッション」
	4日 15:20～16:20	「インダストリアルセッション」
	5日 9:30～12:00	「情報科学の達人」
5日 13:20～15:20	「中高生情報学研究コンテスト」(オンライン)	
第5 イベント会場	3日 9:30～11:30	「8周年を迎えた認定情報技術者制度 CITP (Certified IT Professional) の現状と今後の方向性」(オンライン)
	4日 12:40～15:10	「論文必勝法」(オンライン)
	5日 13:20～15:20	「切迫する社会課題の克服に向けた AI/ビッグデータビジネスの新展開と人材育成」(オンライン)
第6 イベント会場	5日 9:30～11:30	「Exciting Coding! Junior2022@Ehime」

一般セッション・学生セッション【聴講参加 有料】：

約1,500件の研究成果発表があります。大会3日間でおおよそ30会場を使用して、190あまりのセッションが生まれ、活発な発表、議論・討論が行われます。

■聴講参加費・講演論文集代(税込)

現地参加、オンライン参加とともに同価格です。学生の大会共通聴講参加費は「無料」です。

申込種別	事前価格(2/15まで)	価格(2/16以降～最終日)
大会イベント企画限定聴講参加	無料	無料
大会共通聴講参加(正会員)*全論文のPDFアクセス権付	9,000円	10,000円
大会共通聴講参加(一般非会員)*全論文のPDFアクセス権付	15,000円	17,000円
大会共通聴講参加(学生会員・ジュニア会員・学生非会員)	無料	無料

◇留意事項

※「大会イベント企画限定聴講参加」は、特別講演、招待講演、イベント企画、IT情報系キャリアセッションのみ聴講参加可能です。一般セッション・学生セッションの聴講はできませんのでご注意ください。

一般セッション・学生セッションも聴講参加希望の場合には、大会共通聴講参加(有料)にお申し込みください。学生の方は大会共通聴講参加費が「無料」です。

※「大会共通聴講参加」は、一般セッション・学生セッションを含む大会すべてのセッションの聴講参加が可能です。

※講演参加申込の方、座長、イベント企画者および登壇者は聴講参加申込は不要です。座長には別途ご請求の案内をいたします。

◇ハイブリッド開催について

オンラインミーティングツール Zoom を併用しながら現地でイベント企画・各発表セッションを開催致します。インターネット・オーディオ機器に接続できる PC とヘッドセットを各自で必ずご準備願います。

イベントによっては、オンラインのみのものがあります。現地ではパブリックビューイング会場でご覧いただけます。

■懇親会(有料)

大会参加者の皆様の親睦をぜひ深めてください。

開催日時：2022年3月3日(木)18:00～20:00(予定)

開催会場：ホテルメルパルク松山(松山市道後姫塚123-2)

■講演論文集代(税込・送料込)

残部のある限り販売を行います。確実に御入手いただくには2022年2月3日(木)までのお申し込みをお勧めいたします。受け取りは大会終了後の郵送となります。

申込種別	予約価格(2/3迄)	価格
講演論文集分冊(個人・法人問わず)	13,000円	14,000円
講演論文集セット*DVD-ROM1枚付き(個人・法人問わず)	60,000円	66,000円
講演論文集DVD-ROM(個人)	10,000円	
講演論文集DVD-ROM(法人)	60,000円	

■聴講参加および講演論文集の予約申込、詳細は、以下のサイトからお願いいたします。

第84回全国大会公式 Web サイト <https://www.ipsj.or.jp/event/taikai/84/>

■問合せ先

一般社団法人情報処理学会 事業部門

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台1-5 化学会館4F 電話 (03) 3518-8373 E-mail: ipsjtaikai@ipsj.or.jp

半導体不足が続いている。産業のコメとも呼ばれる半導体は、家電や携帯電話、自動車、ゲーム、飛行機など、大小さまざまなモノに使われており、私たちの生活に欠かせない存在だ。教育現場でも Raspberry Pi や Jetson など学生の教育に欠かせない部品の入手が困難となっており、非常に困っている。

かつて日本は半導体の分野で世界を牽引していた。現在弱体化はしてきているが日本の半導体ウェーハ処理工場の生産能力はまだ世界の16%を保持している。経済産業省の試算では半導体市場は、2030年までに約100兆円規模に到達すると見込まれている成長産業である。デジタルの世界では、半導体チップは生産の生命線であり、IoTの世界ではサイズの小さな低消費電力の半導体が必須であり、高速処理が可能な新たなAIチップは必

要である。半導体製造は正に工場の強さが鍵を握る分野である。加えて、その他の製造業の要である。コロナ禍の不景気下でも売れ行きが良い商品にもかかわらず、半導体不足のため生産できない製品が多く存在する現状を鑑みると日本半導体の底力を示せばと願わざるを得ない。

本特集を企画し、工場運営の考え方には日本独自の考え方があり、製造業が日本のお家芸と言われているゆえんであることを再認識した。製品、そこで働く人を大切に思い、心を尽くす姿勢が日本らしさなのだと思う。その結果として品質が高く、壊れにくい優れた製品が製造できる。私はこの企画の編集に携わり日本の工場の将来は明るいと感じた。

(袖美樹子／本特集エディタ)

次号 (3月号) 予定目次

編集の都合により変更になる場合がありますのでご了承ください。

※はオンライン版のみの掲載となります

「特集」知能コンピューティングー AI とハードウェアの出会いー※

AIは新しいハードウェアを欲しているか？—知能と計算とアーキテクチャの新しい関係／確率的コンピューティングの再開拓—その場学習が可能な極低電力エッジAIに向けて—／画像の解像度と知的処理の関係を見つめ直す—知的な高解像度リアルタイム処理に向けて—／機械学習に適したハードウェア・ハードウェアに適した機械学習アルゴリズム／ランダム・スパース・ストカスティック—新しい計算の形を目指して—

委員会から：<Info-WorkPlace 委員会企画> お届け Info：今年度もやります！全国大会の“デリバリー”

学会活動報告：IFIP 近況報告—情報処理国際連合—

教育コーナー：べた語義

連載：5分で分かる！有名論文ナメ読み／情報の授業をしよう！／先生、質問です！／ビブリオ・トーク

コラム：巻頭コラム

複写される方へ

一般社団法人情報処理学会では複写複製および転載複製に係る著作権を学術著作権協会に委託しています。当該利用をご希望の方は、学術著作権協会 (<https://www.jaacc.org/>) が提供している複製利用許諾システムもしくは転載許諾システムを通じて申請ください。

尚、本会会員（賛助会員含む）および著者が転載利用の申請をされる場合には、学術目的利用に限り、無償で転載利用いただくことが可能です。ただし、利用の際には予め申請いただくようお願い致します。

権利委託先：一般社団法人学術著作権協会
〒107-0052 東京都港区赤坂 9-6-41 乃木坂ビル
E-mail: info@jaacc.jp Tel (03)3475-5618 Fax (03)3475-5619

また、アメリカ合衆国において本書を複写したい場合は、次の団体に連絡してください。
Copyright Clearance Center, Inc.
222 Rosewood Drive, Danvers, MA 01923 USA
Phone: 1-978-750-8400 Fax: 1-978-646-8600

Notice for Photocopying

Information Processing Society of Japan authorized Japan Academic Association For Copyright Clearance (JACC) to license our reproduction rights and reuse rights of copyrighted works. If you wish to obtain permissions of these rights in the countries or regions outside Japan, please refer to the homepage of JACC (<http://www.jaacc.org/en/>) and confirm appropriate organizations.

You may reuse a content for non-commercial use for free, however please contact us directly to obtain the permission for the reuse content in advance.

<All users except those in USA>

Japan Academic Association for Copyright Clearance, Inc. (JAACC)
6-41 Akasaka 9-chome, Minato-ku, Tokyo 107-0052 Japan
E-mail: info@jaacc.jp
Phone: 81-3-3475-5618 Fax: 81-3-3475-5619

<Users in USA>

Copyright Clearance Center, Inc.
222 Rosewood Drive, Danvers, MA 01923 USA
Phone: 1-978-750-8400 Fax: 1-978-646-8600

..... 広告のお申込み

■広告料金表（価格は税 10%込）

掲載場所	4色	1色
表2	363,000円	—
表3	302,500円	—
表4	423,500円	—
表2対向	330,000円	—
表3対向	291,500円	170,500円
前付1頁	275,000円	148,500円
前付1/2頁	—	88,000円
前付最終	—	162,800円
目次前	—	162,800円
差込 (A4変形判 70.5kg未満 1枚)	302,500円	
差込 (A4変形判 70.5kg～86.5kg 1枚)	385,000円	
同封 (A4変形判 1枚)	385,000円	

■「情報処理」

発行 一般社団法人 情報処理学会
 発行部数 20,000部
 体裁 A4変形判
 発行日 毎当月15日
 申込締切 前月10日
 原稿締切 前月20日
 広告原稿 完全版下データ
 原稿寸法 1頁 天地 250mm × 左右 180mm
 1/2頁 天地 120mm × 左右 180mm
 雑誌寸法 天地 280mm × 左右 210mm

■問合せ・お申込み先

〒169-0073 東京都新宿区百人町 2-21-27
 アドコム・メディア（株）（Tel/Fax/E-mail は下に記載）

*原稿制作が必要な場合には別途実費申し受けます。
 *同封のサイズ・割引の詳細についてはお問合せください。

..... 掲載広告の資料請求

掲載広告の詳しい資料をご希望の方は、ご希望の会社名にチェック を入れ、送付希望先をご記入の上、Faxにて（または E-mail にて必要事項を記入の上）アドコム・メディア（株）宛にご請求ください。

■「情報処理」 63巻2号 掲載広告（五十音順）

- オーム社..... 表2対向 すべての会社を希望
 とめ研究所..... 目次前上
 フォーラムエイト..... 表2

■資料送付先

フリガナ お名前	_____		
勤務先	_____ 所属部署		
所在地	（〒 - ）		
	TEL（ ）	-	FAX（ ）
ご専門の分野	_____		



お問合せ・お申込み・資料請求は

広告総代理店 **アドコム・メディア（株）**

Tel.03-3367-0571 Fax.03-3368-1519 E-mail: sales@adcom-media.co.jp

賛助会員のご紹介

本会をご支援いただいております賛助会員をご紹介します。
Web サイト (<https://www.ipsj.or.jp/annai/aboutipsj/sanjo.html>) 「賛助会員一覧」のページからも
各社へリンクサービスを行っておりますので、ぜひご覧ください。

照会先 情報処理学会 会員サービス部門 E-mail: mem@ipsj.or.jp Tel.(03)3518-8370

●●● 賛助会員 (20 ~ 50口)

HITACHI
Inspire the Next

(株) 日立製作所



三菱電機 (株)

FUJITSU

富士通 (株)



(株) サイバーエージェント

Orchestrating a brighter world

NEC

日本電気 (株)



日本アイ・ビー・エム (株)

●●● 賛助会員 (10 ~ 19口)



(株) リクルート



グーグル合同会社



(株) NTTドコモ



(株) 東芝



日本電信電話 (株)



日本マイクロソフト (株)



(株) フォーラムエイト

●●● 賛助会員 (3 ~ 9口)



(一社) 情報通信技術委員会



(株) NTTデータ



グリー (株)



(一財) インターネット協会



(一社) 情報サービス産業協会



トレンドマイクロ (株)



(株) BFT



NTTコムウェア (株)



NTTテクノクロス (株)



(株) うえじま企画



エッジテクノロジー (株)



沖電気工業 (株)



コアマイクロシステムズ (株)



三美印刷 (株)



ソニー (株)



(株) テクノプロ
テクノプロ・デザイン社



みずほリサーチ&テクノロジーズ (株)